

岩手県総合計画審議会  
令和3年度第1回県民の幸福感に関する分析部会

(開催日時) 令和3年5月20日(木) 9:30~12:00

(開催場所) 岩手県水産会館 5階 大会議室

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 議 題
  - (1) 県民の幸福感に関する分析部会について(審議内容等)
  - (2) 分析方針について
  - (3) 分野別実感の分析について
  - (4) その他
- 4 閉 会

出席委員等

吉野英岐部会長、若菜千穂副部会長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、

Tee Kian Heng(ティー・キャンヘーン)委員、山田佳奈委員、和川央委員

欠席委員等

広井良典オブザーバー

## 1 開 会

**○高橋政策企画課評価課長** それでは、御案内の時間になりましたので、ただいまから令和3年度第1回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております政策企画部政策企画課の高橋と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、広井アドバイザーが欠席しておりますが、運営要領第6条第2項に基づきまして、委員の半数以上に御出席いただいておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。

なお、本日竹村委員にはリモートにより御出席いただいております。よろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、政策企画部技術参事兼政策企画課総括課長の照井より御挨拶申し上げます。

**○照井政策企画課総括課長** 皆さん、おはようございます。政策企画課の照井でございます。本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。竹村先生には、リモートでの参加ありがとうございます。

また、昨年度意見聴取という形で参加いただいていた和川特任准教授におかれましては、今年度新たに委員という形で御就任をお願いしたところ、快くお引き受けいただきまして、ありがとうございます。よろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症につきまして、ちょっとお話させていただきますと、全国においても変異株の拡大もありまして、非常に感染拡大が止まらないような状況になってございます。岩手県でも先般高齢者施設でのクラスターなども発生しまして、新規感染者が増加傾向にあり、直近1週間で見ますと、人口10万人当たりの新規感染者数は11人になってございます。また、入院確保の病床使用率を見ますと38%になってございまして、本県におきましても予断を許さない状況であると感じてございます。

こうした状況なども踏まえまして、県では来週月曜日に臨時県議会を開催し、補正予算等を審議することとしてございます。感染症対策やワクチンの接種体制の強化、それから飲食店における感染対策、事業者支援等を審議いただき、感染予防等、あと経済対策を強化していきたいと考えているところでございます。

さて、このような中でございますが、今年1月から2月に県民意識調査を実施いたしまして、このほど結果が取りまとまったところでございます。事務局から具体的な説明がありますが、県民意識調査においては、幸福だと感じる割合と幸福と感じない割合、共に昨年度より割合としては減少している状況でございまして、県民の幸福に係る実感平均値は昨年よりも上昇しているというような概要となっております。

本部会におかれましては、昨年度に引き続きこれらの調査結果に基づき、県民の幸福感に関する分析を行っていただきたいと考えてございますので、それぞれの委員の皆様から様々な御意見をいただければと考えてございます。県では、その分析結果と昨年の事業実績評価、県民計画の評価を適切に行い、今後の政策や方針に役立てていきたいというふうに考えておりますので、皆様の忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単でございますが、開会の御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

**○高橋政策企画課評価課長** なお、照井技術参事につきましては、用務のため退席いたしますので、御了承願います。

それでは、議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、資料の1から資料6、参考資料の1から参考資料の5

**○竹村祥子委員** すみません、ちょっとハウリングして聞き取りにくいので、イヤホンの方にちょっと変えますので、ちょっとだけ外します。

すみませんでした。ちょっとハウリングして聞き取りにくいので、イヤホンの方へ変えます。

**○高橋政策企画課評価課長** 竹村先生、よろしいでしょうか。

**○竹村祥子委員** 今度は声が大きくてびっくりしました。聞こえるようになりました。

**○高橋政策企画課評価課長** よろしいでしょうか。

**○竹村祥子委員** はい、大丈夫です。こちらは聞こえていますか。

○高橋政策企画課評価課長 ええ、はっきり聞こえております。

○竹村祥子委員 どうもすみません、失礼いたしました。よろしくお願いします。

○高橋政策企画課評価課長 お願いいたします。

資料の確認ですが、資料の1から資料の6、それから参考資料の1から参考資料の5までとなっておりますので、お手元の資料を御確認いただきたいと思います。もし資料の不足等ございます場合には、お知らせいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、前回の部会で御了承いただきましたとおり、県民意識調査の結果につきましては、速報の段階でございますので、今回の部会につきましては非公開とさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

### 3 委員紹介

○高橋政策企画課評価課長 続きまして、今年度から、先ほど照井技術参事からもありましたが、委員1名を追加しておりますので、御紹介させていただきます。

岩手県立大学准教授の和川央委員です。和川委員につきましては、昨年度意見聴取という形で御参加いただいておりますが、本年度より委員として御参加いただくこととしてございます。よろしくお願いいたします。

それでは、和川委員から一言御挨拶いただきたいと思っております。

○和川央委員 御紹介いただきました県立大学の和川でございます。前身の指標研究会から、引き続きこういった形で皆様とお仕事ができることを大変光栄に思っております。これまで分析をする立場だったのですが、これからは分析をお願いする立場になりまして、ちょっとほっとしているところでございます。

1点だけ少々お時間をいただいて紹介したいことがございまして、近年GDPに代わる指標としまして、GDWという指標がじわじわとはやってきました。グロス・ドメスティック・ウェルビーイングというのでも、これまでは幸福の観点というのは自治体の取組が主流だったところから、民間企業、特に大企業を中心に広がっています。その中で、岩手県って何かすごいことやっているみたいだぞというものもじわじわと広がってきているかなと思っています。この分析部会の結果につきましても、そういった流れで、県内だけではなくて、広く紹介されること、これから伝わっていくのではないかなと期待をしているところでございます。具体的に貢献できるように頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○高橋政策企画課評価課長 ありがとうございます。

### 3 議 題

### (1) 県民の幸福感に関する分析部会について（審議内容等）

○高橋政策企画課評価課長 それでは、議事に入りたいと思います。

運営要領第4条第6項の規定によりまして、部会の議長は部会長が務めることとされておりますので、以降の進行につきましては、吉野部会長、よろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長 竹村先生、おはようございます。実は、この後全体のカメラにまた戻しますが、私が座っている席にカメラがありまして、私だけが映らないような設定にさせていただいておりますので、声だけはこのように出せますので、どこからしゃべっているのだというふうに疑問に思わなくて大丈夫ですけれども、私自身も会場にはいますので、御安心ください。

それでは、元のカメラに一旦設定を戻させていただきます。これが私の席から見た各委員の配置になっているわけです。一番奥に事務方の方々がお座りになっておられます。ちょっと予定にはありませんが、事務方はこの4月より人事異動で変わられているところもありますし、竹村先生には御紹介してありますか、皆さんのことを。

○高橋政策企画課評価課長 ないです。

○吉野英岐部会長 では、せっかくですので、1回目ですので、事務方の職員さんの御紹介をお願いしてよろしいですか。

○高橋政策企画課評価課長 私は4月から政策企画課の評価課長で参りました高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○池田政策企画課特命課長 昨年度に引き続きまして、本会の担当をさせていただきます池田です。よろしくお願いいたします。

○廣田政策企画課主任 昨年度に引き続きまして、評価担当をしております廣田と申します。竹村先生よろしくお願いいたします。

○佐々木政策企画課主事 4月から政策企画課の評価担当になりました佐々木と申します。今年度はよろしくお願いいたします。

○桜田調査統計課主任主査 調査統計課の桜田です。一昨年度、分析部会が立ち上がったときからお世話になっております。今年もよろしくお願いいたします。

○吉田調査統計課主事 今年度から調査統計課に参りました吉田と申します。よろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長 突然すみませんでした。ありがとうございます。という布陣で今年度会議を進めていくことになると思いますので、御協力よろしくお願いいたします。

ちょっとカメラが遠くて事務方の方は顔が小さいので、竹村先生から見るとよく顔が見えないと思うのですけれども、ちょっとアップにできないのですよね。アップにならないので、御了承ください。声は入ると思います。実は今映っているこの画面がこれ左右逆に映るのですか、私から見ると右側に若菜さんいるのですが、こっちは大丈夫ですか。

**○和川央委員** 相手方にはちゃんと映っています。

**○吉野英岐部会長** そうですね。すみません、私からちょっと見ると、ここに若菜さんがいるのですけれども、戸惑いますが、もしかしたらうまく差配ができないかもしれませんけれども、御了承いただきたいと思います。

それでは、お手元に資料が届いていると思いますので、資料に従って進めていきたいと思えます。では、資料1から進めますので、議題の3の1、県民の幸福感に関する分析部会についてのところ、事務局からの御説明をお願いします。

**○池田政策企画課特命課長** それでは、担当の池田より御説明をさせていただきます。座って説明させていただきたいと思えます。

資料1につきましては、本会の役割等について整理した資料でございます。創設段階から皆さん入っていらっしゃるということで、年度初めの振り返りということで御了解をいただければと思えます。今回の役割といたしましては、いわて県民計画の着実な推進に向けて、県民の主観的な幸福感の変動要因を把握して、政策立案に反映していくというために、県民意識調査で把握した県民の主観的な幸福感、専門的かつ県民目線で分析をしていただくというような役割となっております。

本会の審議内容といたしましては、大きく2つございまして、1つが分野別実感の変動要因の分析、もう一つが分野別実感といわて幸福関連指標との関連性ということで、大きく2つのミッションを持ってございます。2つ目のミッションの方につきましては、来年度以降のところである程度幸福関連指標の動向ですとか、実感が流れから分かってきた段階での分析をお願いしたいと考えてございまして、今年度は昨年度と同様に分野別実感の変動要因の分析ということでお願いをしたいと思っております。

年間のスケジュールでございます。こちらの方につきましても、昨年度同様5回の部会の開催を考えてございます。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、本日も、あと1週間後続けて部会の方を開催させていただきまして、こちらの方でまずは分野別実感の変動要因の分析をさせていただき、6月、7月とレポート案の中身を整理していくということになるかと思えます。7月のところで大体が変動要因の推測のところまでは進めていただき、県としては8月から政策評価の方をスタートさせていきたい、最終的には9月にレポートの内容を確定させていただいて、11月の総合計画審議会に御報告をさせていただくという流れで考えてございます。

本資料の説明につきましては、以上でございます。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。総計審が10月27日で決まっているのですけれども、それがこれに当たるということでよろしいのですか、11月頃というのは。

○池田政策企画課特命課長 ちょっとその日程はまだ変動する要素もあるかもしれないので、近くなったところで改めて確定というような形でお話をさせていただきたいと思えます。

○吉野英岐部会長 たまたま委員、若菜先生も委員ですけれども、1年の日程を早く出すので、あそこは、ちょっと早めに総計審が開かれそうだというような私印象を持っていますけれども、それに間に合うように。

○池田政策企画課特命課長 そうですね。実は、そこもにらんで今年、去年は10月に第5回開催することとしているのですが、前倒しでと考えてはございます。ただ、ちょっと日程のところは調整させていただきたいと思えます。

○吉野英岐部会長 そうですね。ということで、かなりタイトなスケジュールで委員の皆様には御苦労をおかけしますが、この資料についての御質問等ありますか。よろしいですか。

「なし」の声

○吉野英岐部会長 では、こういったスケジュールと内容でやりますということですので、御確認ください。

## (2) 分析方針について

○吉野英岐部会長 続きましては、分析の方針について事務局より御説明をお願いします。

○池田政策企画課特命課長 それでは、私の方から説明をさせていただきます。

今回の分析方針ということで、昨年も同様のものは作成しているのですが、内容的な整理といたしましては、去年のレポートの内容におおむね沿った形で記載をさせていただいてございます。今年の分析の目的ということは、先ほどもおおむね御説明はさせていただいたところですが、政策評価において県民実感を反映していくための検討材料として分析を行っていくということでございます。

基本的な考え方といたしましては、県民意識調査によって得られました分野別実感につきまして、その変動要因を分析いたしまして、マネジメントサイクルに活用していくというものでございます。詳細分析の対象ということといたしましては、10分野のうち、基本的には低下した分野を優先的に行う、ちょっと先取りした形で大変恐縮なのですが、今年低下しているのは4分野なのですが、上昇している分野も4分野ございます。ですので、まずは低下した部分を優先的にやりながら、上昇したものにつきましても併せて分析の方をお願いできればというふうに考えているものでございます。

分析の手順ということで、県民意識調査の結果から時系列変化の有無をt検定で検証するというところから始まりまして、分析対策の選定ということで、ここで先ほどちょっとお

話ししてしまいましたが、実感が低下した分野と上昇した分野を選定してやっていきたいというふうに思っております。

属性差の有無につきましては、一元配置分散分析で検証するというので、このところまでは去年と全く同じ手法で考えてございます。そこに付け加えまして、今回県民意識調査に新たに追加いたしました新型コロナウイルス感染症の影響の部分につきまして、どういったような実感を県民の皆さんが感じられていたかということをお示した上で、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ見られなかった去年の1月の状況と、今年1月の調査の状況を比較して見てみるというようなことが5番に書いてあるというものでございます。

それらを踏まえて、分野別実感の変動要因について理由を推測していくという手法になります。以下、7番、8番、9番は去年のとおりになってくるのですが、7番のところにつきましては28年から今年調査まで一貫して低値または高値で推移している属性、こちらの部分について確認して、その変動要因を推測するというものとなっております。大きな流れといたしまして、このような形で今年度の分析については進めさせていただきたいというふうに考えてございます。

事務局からは以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

では、以上の部分につきまして、御質問等ありましたら伺いたいと思います。よろしいですか。

「なし」の声

**○吉野英岐部会長** レポートというのはこのことでいいのですよね。

**○池田政策企画課特命課長** はい。

**○吉野英岐部会長** ちょっとすみません、このことというと竹村先生見えないのですけれども。

**○池田政策企画課特命課長** そうですね、すみません、机上には去年の資料一式と、あとレポートの方は御用意させていただきましたので、検討の際にはそちらの方も参考にされながら進めていただければと考えてございます。

**○吉野英岐部会長** 幸福白書というのはまた、あれは普及版としてつくっているというのでいいのですか。今日、御紹介なくていいですか、あれは。

**○池田政策企画課特命課長** すみません、持ってこようかと思ってすっかり、大変恐縮です、次回は御用意させていただきます。

○吉野英岐部会長 委員の先生方は御存じだと思いますけれども、カラー版で非常にきれいな幸福白書という、2回目が出たのでしたか、この間。

○池田政策企画課特命課長 そうですね、昨年の分が出来上がっており、今配架しています。

○吉野英岐部会長 恐らく県民の皆様や一般の方は、それを御覧になることが多くて、ここまで見る人はなかなかいらっしゃらないかもしれないけれどもということによろしいですか。

○池田政策企画課特命課長 そうですね、このレポートの幸福のまとめ部分を、評価レポートの方に整理して作らせていただいておりますので、それをさらに抜粋したというような形で整理したものになってございますので、次回のときにそちらの方をご用意させていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長 あれ結構な部数刷っているのですよね、2,000とか。

○廣田政策企画課主任 3,000。

○吉野英岐部会長 3,000。よく県内の各地に置いてあって、あちこちで手に取れるようになってきていますので、結構ここでやっている会議なんかもそれをきれいにまとめていただいて、多くの県民の方に届けていただいておりますので、そういった意味では単にこの会議だけでいろんなことを決めているわけではなくて、これを県民の方々や一般の方々に還元していったら、生かしていただくということにつながっていくのではないかなと思っておりました。

分析の方針について、昨年同様ということですので、中身については今年度の結果に合わせて増減があるかということですのでけれども、よろしいですか。では、確認はここまでにいたしまして、ここからが早速結果に入っていきたいと思います。

### (3) 分野別実感の分析について

○吉野英岐部会長 それでは、令和2年の県民意識調査の結果につきまして、これも事務局から御説明をお願いします。

○桜田調査統計課主任主査 それでは、資料3を御覧ください。令和3年県の施策に関する県民意識調査結果、速報の抜粋について御説明いたします。座って御説明いたします。

こちらは、速報の抜粋ですので、速報のこの情報自体が5月の25日の火曜日に公表予定となっております。今日の分析部会にはいち早く委員の先生方に情報提供をすることになりました。

まず、1ページ目の調査概要の方から御説明いたします。調査の目的は、御存じのとおりいわて県民計画の施策について、県民がどの程度重要性を感じて、どの程度満足してい



るかを把握するというもので、平成12年から実施しておりまして、今年で19回目となっております。

2の調査の概要ですけれども、調査対象は県内に居住する18歳以上の男女から5,000人を無作為抽出しております。調査方法につきましては、郵送等によるアンケート調査をしていまして、調査時期は今年の1月から2月に行っております。調査項目は、幸福度のほかに重要な満足度等も聞いております。今回の回答者数ですけれども、3,549人となっております。有効回収率は71.0%となっております。参考までに、昨年は67.7%、一昨年度は66.5%ということで、今回高い数字となっております。(9)の回答者の属性、こちら性別、年齢別、居住地別、職業別で記載しております。こちらは例年とほぼ同じ割合の回答となっております。

今から速報の公表データを御説明いたしますが、まず注意事項として、この県民意識調査の公表データなのですが、回答者数の地域差を考慮して、居住地による母集団拡大集計というのを行っております。ですので、単純集計で行う結果と、分析部会だと単純集計による分析の結果と意識調査の公表データとは若干ほんのちょっとですけれども、ずれが生じるということをまず御説明しておきます。

それでは、2ページの方を御覧ください。問4-1、分野別実感についての回答状況です。これが箱囲みを中心に説明していきます。「感じる」の割合が高いのは、「自然に恵まれていると感じますか」の76.8%、「家族と良い関係がとれていると感じますか」の64.0%、「お住まいの地域は安全だと感じますか」の62.2%となっております。一応1位から3位を含めまして、全体的に例年と同じ順位となっております。

次に、3ページ、問4-2、主観的幸福感に関する設問についての回答状況になります。幸福と感じる割合が約55% (55.4%) となっております。全ての広域振興圏で50%以上となっております。感じる割合ですけれども、前回と比較すると0.8ポイントの減少とはなっております。ただ、3ページの左下の方の参考、平均値(県計)の推移を御覧になっていただきたいのですが、昨年の調査では5点満点中3.48点となっていて、今年は3.52点ということで、プラス0.04ポイントの上昇となっております。

次に、4ページを御覧ください。問4-3、「あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか」についての回答状況です。幸福かどうか判断する際に重視すると回答した人の割合が高いのは、1位、「健康状況」の75.1%、2位が「家族関係」の70.1%となっております。ここは、1位、2位は例年と同じ順位となっております、3位の「自由な時間・充実した余暇」というのは、前回4位だったところが今回3位となっております。全体的に順位は例年と同じ内容となっております。

次に、問4-4、「身近な周りの人の幸福等について、あなたの実感をおたずねします」の回答状況です。「感じる」の割合が高いのは、「安定した日々を過ごしていると感じますか」の53.8%、「人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか」の53.2%となっております。こちら例年と同じ結果となっております。

次に、5ページ目に行ってくださいまして、問5-1、「あなたは、ご近所との方とどのようなおつきあいをされていますか」の結果になります。「ご近所づきあいがある」と回答した人の割合は91.6%となっています。一方「つきあいは全くしていない」は4.5%となっております。

次に、問5—2、「つきあっているご近所の方の数は、どのくらいですか」の回答結果ですが、「面識・交流がある」と回答した人の割合が91.2%となっています。一方、「隣の人が誰かも知らない」は4.9%となっています。

次に、6ページの間5—3に行ってくださいまして、「あなたは、①友人・知人、②親戚・親類とどのようなおつきあいをされていますか」の結果ですけれども、友人・知人等とのつきあいが「ある」と回答した人の割合が友人・知人で68.6%、親戚・親類では69.8%となっています。最も割合の高いつきあいの程度は、友人・知人では「ときどきある」の36.2%、親戚・親類では「ときどきある」の42.5%となっています。

5ページの間5—1から6ページの間5—3まで、例年と同じ結果となっております。ここも全般的に付き合いの程度が若干薄くなっている結果となっております。

次に、6ページの間5—4の方に行きます。こちら「あなたは現在、①地縁的な活動、②スポーツ・趣味・娯楽活動、③ボランティア・NPO・市民活動をされていますか」という設問への回答状況です。地縁的な活動をしている人は30.1%、スポーツ・趣味・娯楽活動をしている人は23.1%、ボランティア・NPO・市民活動をしている人は13.5%となっております。こちら活動している割合が約2ポイントから5ポイント程度減少、①から③全て減少しております。

次、7ページを御覧ください。問5—5、「お住まいの地域（小・中学校区から市町村の範囲）に対する実感をおたずねします」ということで、地域への実感は、割合の高い順に「地域への愛着を感じていますか」は53.2%、「信頼できる人が身近にいると感じますか」は47.9%、「ご近所とのつきあいがよいと感じますか」は47.6%、「地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか」は21.6%となっています。この計算につきましては、感じる割合が若干低下して、感じない割合が若干上昇したという結果となっております。

次に、8ページ目を御覧ください。問6、「あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか」という設問への回答状況です。この設問ですが、新しい設問ということで、新型コロナの影響による生活様式の変化に伴う政策分野に関する実感、分野別実感への影響を把握するために設けた設問になります。全般的によくない影響と回答した割合が多かったのですけれども、よくない影響を感じる割合が高いのは、1位が「こころの健康への影響」が62.7%、2位が「余暇の充実への影響」の60.6%、3位が「からだの健康への影響」の56.8%となっています。

次に、9ページ目に行ってくださいまして、これは「県民意識調査」分野別実感の時系列分析結果ということで、平成31年の基準年比較となります。t検定を行って5%水準で有意な変化が確認できたものをR3の当該年度の網かけと矢印で表記しております。上昇が4分野、下降が4分野、横ばいが4分野となっております。下降が下矢印で表記しておりますが、余暇の充実、あとは(7)の地域社会とのつながり、(8)の地域の安全、(11)の歴史・文化への誇りとなっております。上昇は、(1)の心身の健康、(4)の子育て、(5)の子どもの教育、(10)の必要な収入や所得となっています。

参考までに、10ページ目の方を御覧いただきたいのですが、こちらは前年比較をしております。前年比較となりますと、低下したのが3分野になっておりまして、上昇が5分野、変化がないのが4分野となっております。

説明は以上になりますけれども、第2回の分析部会ではもう少し分析部会後に詳しい内容で資料を御準備したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

では、引き続いて補足調査の説明も申し上げます。

○池田政策企画課特命課長 それでは、資料4に基づきまして補足調整の結果の方を御説明させていただきます。

こちらの補足調査、600人という方々を対象として定期的に行っている調査ということでございます。1回目の調査の段階でお二方からは、ちょっと次回からということでお話ございましたので、調査対象者数としては598人でスタートしてございます。有効回収率見てみますと、95.5%ということで571人の方から御回答をいただいて、昨年の調査に比べると10人くらいちょっと減ったというところはございますけれども、かなり高い回収率が出ているというもので考えてございます。

おめぐりいただきまして問1-1、現在のあなたご自身のことについてということで、各分野別の実感の状況というものをお示ししてございます。基準年から比較してグラフ化してございますけれども、基本的なトレンドについては先ほど県民意識調査の方でもお話しございましたけれども、こちらの方についても同様に自然に恵まれているという部分ですとか、家族関係というものが上位に来てございます。

次に、主観的幸福感ということで、どの程度幸福だと感じていますかということになってございます。こちらの方につきましては、昨年と同様に県民意識調査よりはやはり若干高い実感平均値で推移をしてございまして、実は去年と全く同じ値ということになるので、3.77点というようになってございます。「幸福」とお答えになられた方々の割合といたしましては70.9%ということで、若干数としては減ってはいますけれども、全体として見ると大体同じぐらいなのかなというふうに考えております。

次おめぐりいただきまして問1-3ですね、重視した項目がどのようなものだったのかということで御覧いただきますと、やはり「家族関係」、「健康状況」というようなところが昨年同様非常に高くなっているというものでございます。

その下に、「最も重視する項目は何ですか」という御質問をさせていただいたのですが、そこでもやはり「健康状況」、「家族関係」というところが非常に高い割合を占めているというような結果となっております。

ちょっと飛んでいただきまして、9ページ、こちらに新型コロナウイルス感染症の影響についてということで、今回県民意識調査と同様に「良い影響を感じる」から「良くない影響を感じる」まで実感をお聞きしたものでございます。実は、上位4つまでのところについては、多少順番は違うところございますけれども、基本的には同じということになっています。「こころの健康」、「余暇」、あとは「からだ」と「地域社会とのつながり」というところが基本的には高くなっておりまして、中身見てみますと若干割合的には県民意識調査よりもよくない影響を感じた方の割合が大きいというような傾向にあるのかなと思っております。こころの健康ですと大体76%ぐらいなっているので、ちょっと高いのかなという感じは受けているところでございます。こちらのところの設問につきましては、県民意識調査と異

なりまして、自由記載の欄をつくってございます。

おめぐりいただいて、新型コロナウイルス感染症のところで、回答内容と、あとは「よい・ややよい」、「どちらでもない」、あと「やや良くない・良くない」の3つのカテゴリーに整理をしてございます。この区分のところについては、一括で自由記載をお願いしているものですから、どの分野にというのがなかなか難しいところございますので、取りあえず事務局側の方で大体御回答の中で「よい・ややよい」というような、よい影響を感じるというものが多様な方々の理由の中でポジティブなものについてはこの「よい・ややよい」の方に整理してございます。どちらかというときよくない影響という方々に記載されている方の自由記載の回答内容につきましては、「やや良くない・良くない」の方に整理をさせていただいたというふうな中身になってございます。

いろいろな記載はあるところなのですが、「よい・ややよい」の中身を見てみますと、こちらの方については健康の部分にかなり気を使って、命の大切さも含めて感じていらっしゃる方がいらっしゃる。あとはやはり家族の時間を有意義に過ごしているというふうなところの御回答がございました。一方で、「やや良くない・良くない」の方の回答理由の主立ったところを見てみますと、余暇の部分に該当してくると思うのですが、例えば旅行に行けないとか、イベントに行けない、それに伴うストレスとか、そういったような内容がございまして、あとはやはり経済面のところで仕事の減収ですとか、失敗して失業というふうなことについての御記載も頂戴しているというふうなところでございます。こちらの方につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を検討する上で参考としていただきたいと考えてございまして、あとは例えば具体的な記載をするときにはこういったような内容の中から整理をさせていただくものになるのかなというふうに考えてございます。

あとは、これに加えまして、我々の方で今年度もワークショップの方も開催してまいりたいと考えてございまして、そういった中で地域社会とのつながりの部分ですとか、仕事、収入みたいなどころの中で、そういったようなものが見えてくればそういったことも加えて検討の方を進めてまいりたいというふうに考えてございます。

私の方から、説明は以上となります。

**○吉野英岐部会長** 御説明ありがとうございました。今年の1月から2月にかけて行われた5,000人を対象とする県民意識調査、さらに600人対象とする補足調査の結果について、概要について今それぞれの御担当から御報告をいただきました。この後は、上がった指標、下がった指標についてちょっと詳しく見ていく予定ですが、まず全体を通じて御説明を聞いたのは会としては初めてですので、各委員の先生方から全体を通じての感想というか、結果に対する見方あるいは状況について少し御感想をいただけたらなと思っております。順番はいつでもいいのですけれども、谷藤さんから全体を見ていかがだったでしょうか。

**○谷藤邦基委員** 全体を見てそんなに強い印象を得たのは実はあまりなかったのですが、ただ私個人の性格がひねくれているというわけではないでしょうけれども、分析されていないところに目が行くというのがあって、今回の県民意識調査、回答者が増えて回収率も上昇したと。実はそういうアンケート調査につきものの問題点だと思うのですが、調査票

を発送する段階ではランダムイズできたとしても、回収された調査票がランダムイズされた状態を保っているかというところ、そこはもうしようがないですね。今回その増えたということは、前回とちょっと性格が違う人が増えている可能性があるというのが私の最初の問題意識で、前回と回答者の動静をちょっと比較してみたのです。そうすると、実は職業別のところで割と目立った差が出てきたかなど。私が見た限りでは、常用雇用者が前回より140人ぐらい増えていたと。それから、会社役員・団体役員も40人ぐらい増えています。これ合わせると、回答者の5%ぐらいここで増えているということなのです。だから、今回の集計結果のこういった人たちの思考、傾向が表れている、強めに出ている可能性があるなというのはちょっと最初に感じたところでした。

そう思って見ていくと、例えば地域とのつながりなんか少し薄めの傾向があるというのがさっきあったかと思うのですが、結局普段であればあまり日中家にいないような人たちが、今回いろんな事情でふだんよりは家にいる期間が長くて、回答にもそういう傾向が出たのかなというようなこともちょっと考えたところです。

あと、細かいところは、ちょっとまだ見切れていないところもあるので、ただそのところだけは回答、集計した内容を見るときに注意が必要だなと思ったところでした。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。ティー先生はこの後分析でも出てきますけれども、全体的な印象はいかがだったでしょうか、結果全体で見て。

**○ティー・キャンヘーン委員** 谷藤委員と同じで、あまりこれとって気になったところはないのですが、何かちょっとさっきちらちらと書いてあったところがちょっと気になって、何かこの増減って少しコロナとどういう関係あるのかなとちょっと、そんなにそんなにすごく強くある、出るのか出ないかとずっと、あまり関係なさそうな気がしているところですかね、取りあえずは。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

山田委員はいかがでしょうか。

**○山田佳奈委員** 集計ありがとうございます。お疲れさまでございます。たくさんあるので、ちょっと幾つもあるので

**○吉野英岐部会長** いいですよ、気がついたときにどんどん。

**○山田佳奈委員** 今回拝見させていただきまして、まず、すみません、お願いも含めてよろしいでしょうか、資料に関するのですが。

**○吉野英岐部会長** はい。

**○山田佳奈委員** まず、資料3について、速報の抜粋ということでありがとうございます。

これから詳しいのをお出しいただけるということで、大変ありがたいところだと思っています。

1つは先ほどお話いただきました詰めのところというのは、今回の議論になったところかなと思うので、具体的なお願いとしましては、これに書いているかもしれませんが、資料3でいきますと、5ページから7ページでしょうか、前年度対比のグラフがありまして、帯グラフというのでしょうか、前年と今年とで並べて推移が分かると、数字を入れていただいているのですが、全体の傾向が並べていただければとありがたいかなと思っています。

あと、8ページの新型コロナウイルス

**○竹村祥子委員** すみません、竹村ですが、ちょっと聞き取りにくいので、マイク近づけていただいて、山田先生よろしくをお願いします。

**○山田佳奈委員** 失礼しました。聞こえますか。よろしいでしょうか。

**○竹村祥子委員** 今は大丈夫です。切れ切れに聞こえてしまうので、申し訳ありません、よろしくをお願いします。

**○山田佳奈委員** すみません、独り言になってしまって、申し訳ございません。気をつけます。聞き取れないというときはぜひお願いします。

資料3の8ページで、コロナウイルスのよくない影響といったところを出していただいているところを、よい影響というのですか、全体を見せていただければありがたいかなと。もう御準備いただいているかもしれません。これは後のパネル調査との比較にも関わってくるころだと思しますので、お願いできれば幸いです。

アンケート調査につきましては、資料4の11ページで、先ほどお話いただきましたように自由回答のところを出していただいて、大変私としてはありがたいと思っております、こちら中身の分類が難しくいらっしまったと思います。私、実はこれ頂いて、どういったキーワードが多い、ありそうかなというので抽出作業を半分ぐらいしてみたところですが、勝手ながら。結構今お話いただきましたようなキーワードですとか、あと子供さんのところですか、教育ですとか、子育てのところ割と悩んでいる方が見られるなど思って、ここをもう少し反映したいなど思っているところです。ですので、よろしければこれ、差し支えなければデータをお送りいただくと、協力というほどのことはできないと思うのですけれども、少しここから見えてくる違う分類の仕方といいたいまいしょうか、そういうのもよろしければ私の方でご提案させていただければと思っているところです。

ということで、ひとまずの最後として、幸福実感については、勝手な予想としては昨年度から下がったのではというふうになんかちょっと思っていたところなのですが、それがほぼ変わらないということで、これ実は今年の3月に発表された国連の世界幸福度レポートの中でも世界百何十か国でも幸福度があまり変わらなかったという、そういう結果が出ているようであります。まだ読み切れていないのですけれども。具体的な生の御回答の中でも散見されますけれども、こういう傾向はあったがこういうことも多かった、ですとか、そのプ

ラスとマイナスと両方、ネガとポジでしょうか、という何かそういう御回答、あるいは実感として書いていらっしゃる方が特徴かなというふうに感じました。それがプラマイで今回の結果が出たという、そこもあるのかなと。たしかワールドハピネスレポートを執筆された方も、もちろん地域によっていろいろ違うのですけれども、こういうところは行動が制限されたけれども近場のことを再発見した、ですとか、そうした対比でも書かれていたかと。ですので、幸福感があまり大きく変わらなかったというのは、中身の方をかなり見ていかないとなかなか見えにくいのかなというのが印象に残っている次第です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

では、何か御要望があったところは、事務の方でまた御回答をお願いします。

若菜委員はいかがですか、全体。竹村先生は最後に。

○竹村祥子委員 はい。

○若菜千穂副部会長 若菜です。今聞きながらというか、聞く前に私ちょっと自分で幸福の部分だけ回答をしてみて、自分の回答と比較しながら聞いていたのですけれども、まず特に2ページ、回答をするときに、やっぱりもうほとんどコロナのことを片隅に置きながら書きました。恐らく回答者の人も、コロナで大分生活変わったしなみたいなことを感じながら回答をされた方が私は多いのではないかなというのは、皆さんも答えてみてどんな気持ちで答えるのかなというのはやってみたらどうかなと思います。私もやっぱりコロナの影響をすごく想定しながら回答したことが1つです。

2ページなのですけれども、大体私の回答とあまり変わらない感じではあったのですけれども、これ2ページってあれですよ、昨年度と比較してプラスのところは地域の安全と収入がプラスで、あとは基本的にはマイナスになっている。この収入は大分この中でも一番増えているのですけれども、これは私の回答から見ると、やっぱり飲み会が減ったというのと、何かそういうのが出るのだろうなというふうな、私としては仮説があるので、ぜひそこら辺が証明されたら面白いなというところと、私は仕事柄やっぱり地域社会とのつながりは見るのですけれども、どこの地域もほとんど地域行事、1年、2年でできていないので、恐らくそこは随分反映されているのだろうなというところは、私としては見てとれたと、理解しやすい回答だったなと思います。

ちょっと私聞き漏らしたかもしれないのですけれども、3ページなのですが、これ平均値、5点満点で計算された緑の、これ増えているのだけれども、この一番上の幸福と感じる人たちと感じない人たちは、感じる人たちは横ばいというか、若干減っている、これ感じない人たちが減ったから平均点が上がったのか、何かやや感じるとかあまり感じないとか、ここの中の変化で、感じる人が減ったのに平均値は上がっているというところが、ここちょっと明確に説明できないといけないのかなと思って、すみません、聞き漏らしたかもしれないので、何でこうなったのかというのをちょっと、今日でなくてもまた数字などで表していただいてもいいかなというふうに思いました。

あとは、本当にそうだろうなというところが私としては感じ取れたので、結果としてはいいというか、すごく主観的ですが。11ページの先ほど山田先生が御指摘された自由記入

の部分の 11 ページのところなのですけれども、これを読むと大体終わりぐらいから何となく言いたいことなのかなというのが、私はマーケットやるときもこのフリーで書いていただく部分は参考にします。ただ、やっぱりこのときにこれややよい、ややよくないでいただいているのですけれども、できれば回答された方の年齢と、その回答を見ていて多分盛岡とか人口が密集しているところと、私は農村なので、農村の人だとやっぱり余暇不満なのですけれども、私から見ると余暇充実してしまっているしみたいな、何か住んでいる地域でも違うのかなという感じがあって、できれば年齢も、性別はいいかなと思うのですけれども、年齢と地域、市町村とか、ちょっとこの後ろに、私こういうのをつくる時は必ずつけるようにしていて、そこら辺をやったり、例えば若い人の意見と年配の人の意見は違うと思っていて、多いからそれだということでは絶対ない、年齢別に違うという多様性は理解しなければいけないので、ぜひそこら辺も加筆いただいて出された方が、若い方はこうだね、年配の方はこうだね、盛岡の人こうだねとか、そういうのはちょっと理解しやすいかなと思うので、ミスリードしないためにもぜひつくっていただけると私たちも理解しやすいかなとちょっと思っていました。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

それでは、和川委員お願いします。

**○和川央委員** 私も谷藤さんと同じようにアンケートをやるとバイアスが、最初見ると気になるところで、同じことをしました。私は逆に先に年齢からやりまして、年齢からいくとやっぱり 20 代から 49 歳までが結構増えているなど。そして、おっしゃるように会社役員、常用雇用者増えているなどと思います。

あと、今のお話を聞いて、幸福研究会でもそうだったのですが、実はこういう意識ってそんなにそんなに大きく変動するものではないよねというのは、たしかあのときも勉強したなと思ひまして、今回の結果お話を聞いて、やっぱりそれほど大幅に上がったり、下がったりするのではないのだなというのを改めて理解できたかなと感じたところです。

私も実はマル・バツをつけていって、私はコロナ影響ってもう感覚的にはすごくあるのですけれども、生活様式に落とし込んで自分のこのやや満足・不満足の間値を考えたときに、影響あるけれども、そんなに間値超えるわけでもないなという、ここは私はそっちの方で、そういった辺りを含めてこの安定性というのは何となく理解できるなという感じを持ったところです。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

竹村先生、お待たせしましたが、全体を見てコメントがあったら教えてください。

**○竹村祥子委員** 全体ということから。

**○吉野英岐部会長** 先生、今マイクが途切れてしまいまして、先生のお声がこちらに届か



なくなってしまいましたが、もう一回ちょっとお話しいただけますか。

○竹村祥子委員 承知しました。

○吉野英岐部会長 オーケーです、オーケーです。

○池田政策企画課特命課長 先生聞こえますか。

○竹村祥子委員 入っていませんか。

○吉野英岐部会長 何度もすみません、今聞こえるようになったのですがけれども、また聞こえなくなった。口が動いているようにも見えるのですがけれども。

○竹村祥子委員 どうでしょうか。聞こえていますか。

○山田佳奈委員 聞こえています。

○竹村祥子委員 聞こえていますか。

○廣田政策企画課主任 先生、すみません、音声のマイクの設定をちょっと見ていただいでいいですか。聞こえていないです、まだ。聞こえていないです、すみません。こちらの声は聞こえていますね。

○竹村祥子委員 どうでしょうか。

○廣田政策企画課主任 今は聞こえます。

○廣田政策企画課主任 聞こえますか。

○竹村祥子委員 はい、聞こえています。

○廣田政策企画課主任 ちょっとお話しいただいでいいですか。

○竹村祥子委員 はい、どうでしょうか。そちらには聞こえていますか。

○廣田政策企画課主任 今は聞こえます。

○竹村祥子委員 では、続けます。

○廣田政策企画課主任 では、ちょっとお待ちいただいで、すみません。

○竹村祥子委員 聞こえませんか。

○廣田政策企画課主任 すみません。ちょっとお待ちください。ちょっと今確認しています。

○竹村祥子委員 県内移動ではなくて、外からの人、親族とか、親しい人の葬儀などで、結局岩手に行けなかったとか、それから岩手に親族が来られなかったということに対する憂慮が結構あるということは、遠い地というか、関東の方で聞いているところでは、陽性者ゼロの岩手には行けないよねと、理由があってもお盆にも帰れない、それからお正月にも帰れないということに対して、どうやってその親族との関係をつなぐかというようなことで、行かないことで県民を守るということを言っている人たちが関東の方でいまして、私の子供なんかも、東京の方に出てきている同級生などと盛岡に帰らないことで盛岡を守ろうとか言って、何人かでズーム飲み会やっていたりしているのです。だから、そういうような温度というか、そういうようなことが地元の方でも、親しい人と会えないということに対して、ソーシャルディスタンスを取るということの実態というのが書かれているのだな、それが地域の社会関係よりはもう少し広めの関係なのですけれども、そのところについてもフリーアンサーのところに出ていたので、ここら辺がこちらから見ているとやっぱりそうなのかという感じがしたところです。多分地元にはないことによって、そこら辺がちょっと痛い思いをしていたので、感想としてはありました。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。すみません、ちょっと機械の不具合が起ってしましまして、先生の音声がかまくこちらに伝わらないところもあったのですけれども、最後の方は聞こえましたので、お話伝わっていると思います。ありがとうございます。

私自身の感想を若干手短に申し上げますと、コロナの影響はかなり社会的には、あるいは行動レベルでも大きな割合を占めているとは思っておりますが、お話にもありましており、それがダイレクトに県民の幸福感に影響したかという、なかなかそこは実は難しく、そんなに幸福感全体の割合は低下していないというのがどうも今回の逆に言えば大きな特徴ではないかなと思ったところであります。

そうはいつても、やはり個別にコロナのところの影響は起っているところもありまして、実社会活動に参加している人が減っていたり、つながりが少し弱くなっていたりということがありますが、例えば資料3の8ページの悪い影響と、よくない影響のところ、どの項目でもよくない影響というのは結構あるのですけれども、さっき言った必要な収入、所得への影響が相当あるのではないかと見て、48.3%というところで、実は余暇の充実への影響よりは低いですね。これは、よくない影響を感じる、あるいはあまりよくない影響を感じるというものの合計値でこうなっておりますけれども、こっちは資料4の方でこれを見ても、実はやっぱり余暇の方が影響が大きくて、資料の4のこれは9ページで出ています。結構所得、収入の影響ももちろんよくない影響もあるのですけれども、余暇の充実の方のよくない影響の方が50%を超えるぐらいになっているようです。ど

うも社会的に考えると、例えば10万円の給付金は全員に来ましたし、様々な経済的な支援策が各自治体、国を通じて盛んに言われているところではあるのですが、では余暇の支援策というのはGo To トラベルのことなのでしょうか、そういった支援策があるにはあるのですけれども、やはり社会的な流れとしては、まず感染を抑えなくては何も始まらないというような流れがやっぱり一方であって、健康に対する非常にセンシティブな意識というものが世の中の的にはかなりあるし、さらにそれで収入に打撃を受けた人たちから見れば、まずはとにかく所得、収入の確保をきちんとやってもらわないと困るというような御意見もかなり強いのではないかなと思って感じているのですが、広く県民に聞くと、もちろんその影響も大きいとは思いますが、そこよりも余暇とか心の方のストレスの影響の方が少し高く出ているというのが、いわゆる社会のマスコミによく出てくる話とは若干違うような結果に私は感じていたところでもあります。

でも、この自由回答の中を見ますと、もうとにかくこんなに収入が減ってどうしてくれるのだというような御意見も確かにありましたので、非常にこの影響を物すごく強く受けてしまう人たちと、あまり直接的な打撃を受けずに何とか済んでいる人たちとがかなり分かれてしまっているのかなと。これがその後の地域の結びつきとかに様々な分断とか、ちょっと乖離を生んでいくのは、もう少し影響は後に出てくるのかもしれないなというのを少し感じているところです。

それから、親族とのお付き合いというのも、これはちょっとまた資料3に戻って、資料3の6ページなのですが、友人・知人とか、親戚・親類とどのようなお付き合いをされていますかというのがあるのですが、さっき竹村先生もお話あったとおり、実はコロナでもう行き来ができないと、本来であれば行ったり来たりして会えるのに、もう会えなくなってしまった人いっぱいいますというようなお話が結構よく聞くのですけれども、これも少し昨年度よりは何か落ちてはいますけれども、そうはいつでも結構高いなと思っていて、友人・知人とのつきあいと親類・親族とのつきあいがほぼ同じぐらいあるというのはどうなのでしょうとか、いい悪いの問題ではなくて、そんなに親類、親戚と付き合っているのだと私は素朴に感じたところでありまして、友人・知人と付き合うのは、これはどなたで起こり得るわけですが、親類との付き合いがこれだけ強い岩手県かなと思って、例えば県内に親類が私はいませんから、付き合いようがないのですけれども、それからお一人で暮らしたり、1人でこちらに赴任されている方々から見れば、もしこの調査が当たったら、自動的にあるなんてまず答えられるはずがないのですが、かなり数字が上がっているというのは、やっぱり岩手県の中でもこの親類・親族のつきあいというものの底堅さを私はすごく感じているところで、これがコロナになっても一定程度キープはできているのかなという感じを受けました。ただ、これが一方で同調圧力という、何かマイナス的なプレッシャーにもつながらないわけではなくて、人と会ってはいけないとか、どこかに行くとなんか話が出てしまうとか、そういった意味ではコロナ以前ではあまりそういったものが目立たなかったと思いますが、コロナによって、岩手県は特に感染者がなかった時期が長かったですから、非常に行動意識をいろんな意味で制約をしてしまうような力にもなる可能性もあるなと思って、ちょっとこの1年間はふだん考えなくてもいいようなことが要因としてやっぱりかなりあるなと思っていました。全体的な直接的な影響はそれほど大きくはなかったとは思っておりますけれども、これは分析してみないと分か

らないので、今後ティー委員や和川委員の分析にかかっているところが大きいので、期待しているところがございます。ちょっと長くなってすみません。

以上で私全体の感想を申し上げましたが、この後ちょっとその多くなったところと少なくなったところについての分析は既にできていますので、それについて事前にティー委員や和川委員と事務局で整理はできているということです、それは事務局からまた御説明いただきたいと思います。

では、事務局お願いします。

**○池田政策企画課特命課長** それでは、資料5を御覧ください。こちらの方につきましては、昨年の部会のときに全体の傾向が見られるようにということで整理をさせていただいたものがございます。

まず最初に、基準年である平成31年調査と今年の令和3年調査の差を示したものでございます。黄色い部分が上昇、青い部分が低下というものとなっておりますので、先ほど県民意識調査の結果の御報告をさせていただきましたとおり、主観的幸福感の上昇傾向がございますので、黄色い分野がかなり特徴として見受けられるということになります。

一方、低下という部分ということでも余暇の充実ですとか、つながり、安全、歴史・文化への誇りといったところで、確かにやはり青い低下の属性が散見されているということになりますし、特にも先ほど来お話のありますとおり、地域社会とのつながりということについては、やはり幅広く各属性が低下しているというような結果となっているというものでございます。

続きまして、おめくりいただきまして、昨年との属性の比較というものを出示してございます。主観的幸福感につきましては、昨年よりも上がってございますので、このとおりの属性で上昇しているというものでございますし、心身の健康につきましては、これ基準年より上回っているのですけれども、去年よりも少し低下しているということで、幾つかの属性で低下しているという傾向が見受けられてございます。

一方、子育て、子どもの教育、安全、やりがい、収入というようなところについては、かなりの属性のところでは上昇が見受けられておりますが、先ほどお話もさせていただいた地域社会とのつながりというところは、ここでもやはり低下している属性が見受けられているということでございます。歴史・文化においても同様というような形で、今年の調査を基準年と昨年と比べてみるとこういったような傾向にあるということをご覧いただきたいという資料でございます。

さらにおめくりいただきまして、追って分析を行わせていただいています一貫して低値または高値のデータでございます。こちらの方につきましては、基本的に去年と大きく変わってはいないのですが、幾つかの属性が対象から外れたというようなこととなります。余暇の充実でございますと3世代世帯の部分ですとか、収入、所得のところでは居住年数10年から20年といったところが外れているのですが、全体で2つ、3つ外れてはいるのですが、同様の傾向でございますので、こちらにつきましても今年度も同様に分析を行っていきたいというふうに考えてございます。

資料6もやってよろしいでしょうか

**○吉野英岐部会長** 資料6も、はい、どうぞ、

**○池田政策企画課特命課長** では、そのままちょっと資料6の方にも入らせていただきたいと思います。今御覧になったような中身を受けて、昨年同様に基準年との比較という形での分析の方をさせていただいております。コロナの方の分析につきましては、またこれと、これこれだというその影響は別途御検討いただくという形にしたいと思ってございます。

先ほど分析の方針というところでお話をさせていただきましたとおり、基本的にはまず実感が上昇した、低下したということで整理した上で、各属性のところでは変動があったのはどういうものがあるか、その流れ、特徴的な属性があるのかないのか、あとはその分野別実感が上昇または低下したときに、では皆さんは主にどういう理由で御回答をされているのかということ踏まえてまとめという形で整理をしたものを1枚のペーパーにしたものでございます。

余暇の充実のところにつきましては、属性としては女性ですとか、50代、70歳以上のところ、職業的にも60歳以上の無職等の属性のところには有意差が見られたところではあったのですが、なかなかちょっとこの属性を見たところでは特徴的な理由の推測は難しかったということで、分野別実感の低下した方の主な理由、上位3位の理由を抽出してみると、自由な時間の確保、知人・友人との交流、趣味・娯楽活動の場所・機会というようなことが得られるということで、この属性の低下の要因は、この段階ではまず自由な時間の確保、知人・友人との交流、趣味・娯楽活動の場所・機会ということで整理をしているというものでございます。

ちょっと追って詳細のところだけ御説明をさせていただきたいと思うのですが、お手元のところに厚い資料の方をお配りさせていただいております。これから各分野の方の分析を行っていただくに当たりまして、ここもなかなか全部が入っているので、資料的に見づらいところもございますので、ここから各分野のところについて、昨年のレポートを前提といたしまして、記載の方を事務局側にちょっと検討して書いていたものでございます。その後ろには、その関連するデータの方もつけさせていただきますので、1つの分野が一くくりで、何となく全体見られるというというように形を整理をさせていただいておりますので、今後の精査のところはこちらの方で行っていただければと思ってございます。ですので、この資料6を横目に見ながら、こちらの方も御覧いただきながらやっていただくとよろしいかなと思ってございます。

続きまして、地域社会とのつながりのところでございます。地域社会とのつながりのところにつきましては、幅広の属性が低下しているということで、これもどれがというところがなかなか難しかったというものでございます。ですので、分野別実感の低下の要因ということで、抽出された3つの理由、1つが隣近所との面識・交流、自治会・町内会活動への参加、その地域で過ごした年数というような理由を踏まえまして、この分野の実感が低下している要因は、先ほど話した低下した分野別実感の低下した方の上位3つの理由から推測されたのではないかなというように形を整理をさせていただきます。

地域の安全につきましても50代、70歳以上という常用雇用者、60歳以上の無職等々の属性のところでは低下が見られてございますけれども、特徴的な理由の推測が難しかったということで、分野別実感の低下した人の理由から、自然災害の発生状況、交通事故の防止、

社会インフラの老朽化という形で整理をしてございます。昨年度こちらのところにつきましては、②の交通事故の部分が自然災害の予防のためのインフラの整備の方の記載があったのですが、昨年は令和元年台風 19 号の影響をかなり受けたという形で部会の年次レポート整理をしたところですが、昨年はそこまで大きな自然災害というのはなかなかなかったというところもあって、恐らくこの理由が変わってきているのではないのかなという考えでございます。

あとは、歴史・文化への誇りということで、こちらは男性、女性、50 代、70 歳以上、臨時雇用者、専業主婦等々、この方々のところで低下をしているということになります。こちらにつきましても、特徴的な変動のある属性というものは特定できなかったのも、最終的には実感が低下した方々の要因から誇りを感じる歴史や文化が見当たらないですとか、地域のお祭り・伝統芸能、その地域で過ごした年数というようなことが理由として挙げられるという形で整理をしてございます。

おめぐりいただきまして、実感が上昇したという分野でございます。心身の健康につきましては、昨年度は 31 年の基準年の調査が心身の健康として実感を聞いている関係で、比較ができないために、分析ができなかったというところがございますが、今年度は令和 2 年調査と令和 3 年調査の比較、それぞれの基準年との比較で理由を考えていくのですけれども、このところについては去年との比較で理由を整理して、抽出してございます。

そういった形で、こちらの方を分析していきますと、実感の上昇のところは 60 代、60 歳以上の無職、その他 20 年以上の居住年の方等々のところで実感が上昇してございます。その中で、特徴的というものなかなか難しかったというところで、最終的には「からだ」と「こころ」に分けて理由の整理をしてございます。「からだ」の方といたしましては、睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分について、ワーク・ライフ・バランスというところ、あとは健康診断の結果ですとか持病の有無、「こころ」の方につきましてもワーク・ライフ・バランスのほか、からだの健康状態、仕事・学業意外の私生活におけるストレスの有無というようなところが要因として考えられるという定義はしてございます。

子育ての方ですけれども、こちらの方につきましても女性の実感が上がっていたり、40 代、会社役員、専業主婦等々、実感が上昇しているということになります。その要因としては、子供を預けられる場所、人の有無、配偶者の家事への参加、自分の就業状況、自分の勤め先の子育てに対する理解というようなものが要因として挙げられております。

子どもの教育につきまして、こちらの方も男性、女性、30 代、60 代等々の属性で上昇が見られておりまして、そこからちょっと特徴的な理由の推測は難しかったのですけれども、分野別実感が上昇した方の主な理由として挙げますと、学力を育む教育内容、人間性、社会性を育むための教育内容、健やかな体を育む教育内容といったようなものが推測をされるという整理をしてございます。

必要な収入や所得というところでは、こちらの方につきましては、女性、60 代、常用雇用者、専業主婦、世帯構成として夫婦のみ、2 世代世帯等で実感が上昇してございます。ここでも特徴的な理由というのは難しいのですが、検討していく中でやっぱり話が出たのは、先ほど来もお話が出ましたけれども、給付金等の新型コロナウイルス感染症の影響対策というのも一つの要因としてはあるのではないかなというようなお話もございましたので、

今後そういったところの御議論される際のポイントとして記載をさせていただいております。

補足調査からの実感が上昇した方の主な理由といたしましては、自分または家族の収入、所得の額、そして生活の程度といったようなことが要因として挙げられるというようなことで、現段階としては整理をさせていただいているというものでございます。

先ほど御説明させていただきましたこの厚い方に、分野ごとに分けて整理させていただきました。さらに、新型コロナウイルス感染症のものについては、1つ事務局側で整理したものも入れてございます。先ほど各報告の県民意識調査結果の方でも御報告いたしましたとおり、新型コロナウイルス感染症の影響のところは、まずはよい影響と感じた人と悪い影響、よくない影響を感じた人の割合の比較と、あとは前年属性との比較、そして実感が低下した要因としては、先ほどお話ししたような要因が考えられることを踏まえつつ、では新型コロナウイルス感染症の影響があると感じた人はどういう要因で書いているのだろうかというようなことを整理する上で、新型コロナウイルス感染症のよくない影響があったと答えた方の中で、実感がさらに低下した方の回答理由を整理させていただいております。その理由と分野全体が下がった理由を比較というか、検討しながら、新型コロナウイルス感染症の影響の部分についても併せて御検討いただければというふうに考えているものでございます。

事務局からは以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。主に資料5と6について御説明をいただきました。

資料のとおりですけれども、昨年あるいは基準年に比べて、この数字が分野別で上昇しているところと下降しているところが大きく分けると4つずつありますよと、それぞれについてどういった属性が出ているのかというのが資料5です。増えているところは黄色とか、オレンジ色というのでしょうか、色をつけていただきまして、落ちているところは青い色で、三角印はその落ちている、マイナスを示していますよということでもございました。あるいは一貫して低値な、値の低いものについても資料5の最後のページで、数字も出した上でお示しさせていただいております。結果の概要みたいなものが資料6というか、分析の概要といいましょうか、資料6は落ちているものについて、まず4項目について分析した結果から、なかなか低下した理由の抽出を明確にお示しすることは難しいというようなことが書かれておりますが、考えられるものとしてはこういったことがあるのではないかとということが書かれてあります。

それから、実感が上昇した分野が次のページに出ておまして、これもお話がありましたとおり、健康分野も実は大きく分けると2つに分かれるのですが、最初の時点で1つだったために、ここは1つとして扱われていますので、この資料6によれば健康分野を1つとして考えると全体で4分野が上昇しているのではなかと。この太いというか、分厚い資料の中では、健康分野は2つに分けてタグを打ってありますので、こころの健康、からだの健康についてそれぞれ分析可能ということで、この分厚い資料の方では1つ増えて、4足す5になっているので、9つのタグが打ってあるということになります。

この後議論していく、あるいは分析していくのは、この各分野別の中の詳しい分析結果

について御説明いただいた上で、委員の皆さんから御意見をいただくということになります。今回と来週を予定されておりますので、今日全部これやってしまうという予定ではなくて、今4足す4、あるいは4足す5の9個の分野につきまして、時間もそれぞれ区切りながら今週と来週で進めていきたいと考えています。ですので、あと1時間弱なのですが、それでも、どうですか、2つぐらいはやりますか、今日は。という方向ですけれども、今の資料5、6を御覧になって、御質問等があれば先に受け付けたいと思いますが、いかがでしょうか。

では、和川さん、どうぞ。

**○和川央委員** 確認です。メインは前年、基準年比較ということでよろしいかなと思うのですが、前年比較をしたときに結果にずれが生じるところがあるかなと思っていて、具体的にはこころの健康なのですが、基準年比較だと上がっているのだけれども、前年と比べると下がっているというところがあります。あとのずれはそれほど大きくはないのですが、これの分析はしないという整理で事務局は考えていらっしゃいますでしょうか、確認です。

**○吉野英岐部会長** では、お願いします。

**○池田政策企画課特命課長** すみません、担当の思いといたしましては、基本的に前年比較のところについては、新型コロナウイルス感染症の影響をどう捉えるかという考え方で考えています。そこのところについて影響があれば、そこは一緒に考えざるを得ないのかなと思っているのですが、多分同じ傾向のものがあればこのようにぐっと下がっているところ、多分新型コロナウイルスの影響と言っていいかどうかはちょっと語弊があるかもしれませんが、ある程度あったとして考えたものがここに反映されている可能性も十分にあるかと思っておりますので、あくまでも基準年比較という理由を整理する上で、ではコロナの影響というのは本当にあったのかなというか、そこまで言えなければ、ではあったという可能性があるのかというところが整理できればいいなと思っています。どこまでできるかというのは、これからの議論の中なのかなと思っていますので、今現段階としては可能な限りのデータを御用意させていただいて、どこまでレポートに反映させていけるのかという御議論をぜひしていただきたいという趣旨でございます。

**○吉野英岐部会長** いかがでしょうか。いいですか。

**○和川央委員** まず、質問に対する答えをいただきましたので。

**○吉野英岐部会長** 分かりました。

そのほか、資料5、6、ここに関する御質問ありますか。よろしいですか。

「なし」の声



**○吉野英岐部会長** それでは、ちょっと時間が押しておりますので、資料5と6は以上、承った、拝聴したということで、各分野についての細かい分析結果について、2つぐらいやりたいと思います。余暇の充実で1回御説明いただいて、御質問、お答え、つながり、その辺り、今日ここぐらいまでは行きたいなと思っております。

では、この分厚い資料というのは何て名前つけているのですか、名前はないのですね、資料何とかとか呼ばないのですよね。

**○池田政策企画課特命課長** 基本的には資料6に付随する資料と考えています。

**○吉野英岐部会長** 資料6の、では別冊の方のこの厚い9つのタグが打ってある資料に基づいて御説明がありますので、そちらを御覧ください。

それでは、事務局からお願いします。

**○池田政策企画課特命課長** それでは、余暇の充実の部分の御説明をさせていただければと思います。

概要については、先ほども御説明いたしました、構成としては①というところで、分野別実感の概況ということで調査結果の内容を整理してございます。分野別実感が低下した要因というところにつきましては、分別ということで、実感が変動した方の理由等々を踏まえた整理を行っているというところになります。

したがって、最初分野別実感の概況で、そして基準年との比較というところにつきましては、基準年調査よりも今年度は2.97点ということで0.08点低下をいたしましたということで、t検定の結果実感が低下しているという判断されますという整理をしている上で、属性の状況というときは表1のとおりという形になってございます。

すみません、先ほど来お話をしていませんでしたが、先ほど調査統計課の方から県民意識調査の結果、詳しく説明をしますよというのは、一元配置分散分析のところはまだ制作中というところがございますので、そういった部分を整理したものを御提出させていただくという整理でございます。そういったものが追ってこのところ、去年と同様に入れていくことにはなりますので、今回の資料としてはこれで御容赦をいただければというふうに考えてございます。

さらに、その後新型コロナウイルス感染症の影響ということで、県民意識調査の結果よい影響を感じた方は8%、よくない影響を感じた方は60%いらっしゃるというような結果となっております。では、前年度比較して実感に変化があった属性というのは何なのかというところを見ても、職業的には学生プラスその他の方々、もしくはその他世帯の方々というところで属性に変化がありましたよというような形で整理してございます。

これを踏まえまして、分野別実感が低下した要因ということ整理しましたが、特徴的な属性の変化というものはなかなか難しいということで、実感が低下した方の主な回答理由から、自由時間の確保、知人・友人との交流、趣味・娯楽活動の場所・機会というような要因が抽出されたということでございます。

新型コロナウイルス感染症の影響ということで、一番最後、31ページをちょっと御覧いただきたいのですが、この31ページのところが実感変動とコロナの実感ということで整理

してございます。ここも実感が低下した中であって、新型コロナウイルス感染症のよい影響、どちらとも言えない、よくない影響を感じたという方々のそれぞれの理由というものを整理させていただいたものでございます。こちらの方につきましては、よくない影響を感じると答えた方々の回答理由といたしましては、自由な時間の確保、趣味・娯楽活動の場所・機会ですとか、知人・友人との交流というような回答が主なものとなっているということとなっております。

1 ページ目にお戻りをいただきたいと思うのですが、先ほどその新型コロナウイルス感染症の影響を受けてよくない影響があったと答えた方の理由と、この実感が低下した理由というのが全く同じ内容となっております。事務局側の記載としましては、同じ理由となりましたということまではちょっと書けなかったのですが、事務局側の方とすると、恐らく実感が低下した理由と、その新型コロナウイルス感染症でよくない影響を感じた人とが答えた理由が同じとなっているということは、やはり新型コロナウイルス感染症の影響はこの分野においては出てなかったのではないかというような形で推測はしたところではございますが、そこの部分も含めてこれから御審議をいただければというふうに考えてございます。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。余暇の充実のところですが、ティー先生は先に分析に参加されて、評価もあると思うのですが、今の事務局側の御説明で大体尽くされているということでしょうか。

**○ティー・キャンヘーン委員** はい、今のところは。

**○吉野英岐部会長** 和川さんも先に分析に携わっておられるのですけれども、よろしいですか。

**○和川央委員** はい、よろしいです。

**○吉野英岐部会長** それでは、全体を通じて、委員の皆様の御意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

では、若菜委員お願いします。

**○若菜千穂副部会長** 私はすごく上手に数字が出ているなと思っています。私の数字の見方なのですが、ティー先生の分析の意図とはちょっと違うと思うのですが、で何でかという、この厚い方のまず5ページなのですが、基準年との比較ですよね。これ、私こうやって見たら分かるじゃんというので、勝手な見方なのですが、昨年度も実は言ったのですが、例えばこの5ページの3つの属性で、一番上の自由な時間の確保で上昇した人は68.2、横ばいの方は62、低下した人は53.4で、こうすると一番多いのは上昇した人というふうに、この横を見て一番多いのはどこかというふうに見ていくと、実感が低下した人の割合が一番多いのはその他なのです。その他で上げているのは、

上昇した人は1.7、横ばいの人は4.7、低下した人は15.5なので、低下した人が一番イメージしたのってその他、その他って何かというふうに6ページを見ると、ほとんどコロナなのです。

私、そもそもこれ裏見ないでぱっと見たときに、低下した人って結構理由って多様なのだなというふうにちょっと想像したのですけれども、むしろこの裏を見るとコロナが埋めているので、恐らく余暇の充実でイメージした人は、コロナの影響で低下したと感じたのだなというふうに私には見えるので、そうしてこの余暇のところで一番大きく低下している属性、例えば50代の人々の低下率が大きいのですけれども、この資料で50代の人々のところを見ると15ページなのです。15ページで、こうやって横に並べていったときに、あまり感じないという人たちですよ、一番右側の列ですね。一番右側で横に並べたときに、数字が一番大きいやつは実はどれかという、文化・芸術の場と、その他とすると、コロナで当然いろんなイベントなくなって、「ああ、なくなっちゃったしな」みたいな人が低下したのかな、もちろんその他なのです。

すみません、もう一個いくと、60代以下の無職が低下率高いのですけれども、その表はなかったもので、60歳以上の人を見ると、19ページなのですが、横に並べたときに比較して多いのは運動や行動制限、それはそうだよなみたいな、ということはやっぱりその他。

最後、沿岸が低いということで、沿岸は何でだろうと思って25ページを見ると、横並びで一番多くなっているのが文化・芸術です、やっぱり。文化・芸術とその場所、機会が失われていると。沿岸の人って、多分盛岡市とかに行ったら何か見たりするのかなと思うと、もう盛岡行きづらいとか、そういうことになったのかな、これはもう本当に勝手な想像なのですけれども、何かそう読むと、私はこの資料6の表の中で見ていくと、やっぱりこの文化・芸術、もちろんコロナ、コロナに影響される文化・芸術の機会が失われている行動制限。そうして読んでしまうのはまずいかというのは、ちょっと皆さんにお聞きしたいのですけれども、私としてはすんと落ちるかなという気はしました。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。結果の解釈について、委員のお考えをいただいたところですが。

**○若菜千穂副部会長** 面白いなと思いました。

**○吉野英岐部会長** そう考えると納得できるのではないかと。

ティー先生や和川さんどうですか、今の解釈は。

**○和川央委員** ありがとうございます。私は、解釈としてはよろしいかと。何が言いたいかという、統計的にどこまで言えるのかというのが私やティー先生の宿題かなと思っておりまして、ただしこの部会の場というのは、それをもってどう解釈するかということもあったかなとあります。解釈ということで御議論いただく分には、十分にあり得るのかなと思います。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

そのほかの委員でこういうことを思っている、ありますでしょうか。竹村先生も、もちろんもし御意見あればいただきたいと思います。

**○竹村祥子委員** ちょっと追いかけるのに苦勞しております、今のところは意見ありません。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

そのほか、谷藤委員いかがでしょうか、この余暇の下落について。

**○谷藤邦基委員** 個人的に縁遠い分野なので沈黙していたのですが、この自由な時間の確保というところ、実感が上昇した人については、かなり上がっていて、まあそういうところがあるのかなと。

なかなか解釈が難しいし、いろんなパターンがあるのでしょうかね。だから、同じ項目でも上昇した人がなぜそれを選んだか、低下した人は何でそれを選んだかというのは多分正反対な位置にあるわけで、自由な時間を確保できた人もそれなりにいるし、できなかった人もそれなりにいるという話になるというところもあるし、何か解釈が難しいです。

ただ、私自身がふだんの、私自身のライフスタイルの中で当然会社としての在宅勤務を推奨したりしている場面もあって、では在宅勤務というのはこういう余暇の充実ということに関連してどういう影響があったのだということになると、因果関係は分からないというか、一応分からないことにしていますけれども、実は年次休暇の取得が減ったのです、在宅勤務やったら。目に見えて減りました。多分在宅勤務である以上は、家でちゃんと仕事をしているはずだというフィクションがあるわけです。ただ、何やっているのかは見えないので、会議でもあればズームで参加させたりとかということはあるけれども、それもなければ何やっているか見えないのです。現に私どもの会社の場合は、特にソフトウェア開発やっている連中は、何やっていたって別に結果が期日までにあればいいというところはあるので、そうすると在宅勤務をやることによって実は自由時間が増えているという者もいたのかなと。

ただ、一方で、それはあくまでも従業員の話で、同居している家族にしてみれば、ふだんいないはずの人がいるので、これは自由時間が減っているという人もいると思うところもあって、いずれ何がプラスに出るのか、マイナスに出るのかは分かりませんが、在宅勤務の影響というのは多分ある一定程度は出ている、どちらかには出ているのかなとは感じています。ちょっとそれ以上のことは、私のところでは何とも分からないなという感じがあります。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。実感の分析も大事なので、今年、去年から広まった在宅勤務というのは、ワークスタイル、ライフスタイルというものがやっぱり実感というのとどう結びつくのかというのは、確かに一つの論点になりますよね、単に仕事の場所が変わったというだけではないのではないかということですよ。ありがとうございます。

山田委員いかがでしょうか。

**○山田佳奈委員** 全体の印象という意味では、今谷藤さんのおっしゃったことを私もちょっと感じるがありまして、今回やっぱり解釈が前回までとはかなり難しくなっているなという、変わっているなということ、変わらざるを得ないといいたいでしょうか、と少なくとも私は印象を持っております。例えば先ほど若菜委員さんがお示し、データ出してくださった補足調査の、例えば6ページですとか、8ページ、10ページの、そういった中でやっぱりコロナというのはいろんなところで出てくるところでありますし、かつそれこそ先ほどの自由回答の中でも、時間はあっても外に出にくいからということ、質的な部分というのがどう変わっていくかというところ。先ほど若菜委員さんおっしゃった飲み会ではないですけれども、交流というのがどれぐらい今までできてきたものがストップしたといったところで判読できるので、実は昨年度までの話と、それから基準年との対比ということ承っているのですけれども、ここちょっと悩ましいなと思っているところで、基準年との比較と、それから前年との比較というのを出してくださったのだと思っております、それは大変ありがたいと思っています。

ですので、今回はかなり中を見ていかないと分からないのかなということ、この項目だけに限らないのですが、先ほどどなたかもおっしゃってくれたことと近いのですけれども、次年度の傾向を追ってみないと最終的にはちょっと分からないところもあるかなという印象を今回持っておりました。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

では、私もせっかく上昇した人の回答と横ばいの人の回答と下落、低下した人の回答をそれぞれ出してきたいただいているので、その差が大きいのが5ページ見てみると、さっき若菜委員もその他のところがかなり大きな差が出ていますよねと、その他の中身を見るとやっぱりコロナと回答する人が多いので、コロナの影響が余暇の充実のところに関係があるのではないかということをおっしゃっていて、ほかの委員も言うておられましたけれども、私ここでほかのところより差が大きいのあるかなと思って見たら、自然と触れ合う場所や機会という7番目の項目が、青いところ、実感が低下した人というのは物すごく低いのです。3.9%しかない、ここに丸つけた人が。でも、実感が上昇した人や変わらない人は、20%から30%の間ぐらいはつけているということを考えると、何でこんなに実感が低下した人が自然との触れ合う場所や機会のところに丸がつかないのだろうという、自然そのものはあるわけで、立ち入り禁止ということあまりなかったと思っていますので、要するに外出を自粛するようにと、ステイホームだったということがやっぱり世の中で強く言われた時期があって、それが商店街に行くのはそうですけれども、それを解釈すると海や山にも行かないで、ステイホームというふうに強く自身の行動に結びつけた方々が一定程度いらっしゃるのかなと。そこがすごく強く出てしまうと、海も山も行けないねというような考えで、やっぱり余暇の充実というところには、それがかなり関連しているのではないかなと。そういうことをあまり強く思わなくて、人に会うわけではないのだから、人混みに行くわけでもないしと考えて、海や山に普通に、少しは減ったと思いますけれども、絶対行かないということあまり考えなかった人はその充実度にはあまり影響が出て

いないのかなど。これは、結構岩手県っぽいなというところはちょっと感じまして、岩手県の場合は、後で出ますが、自然に恵まれているというお答えが非常に多い県ですので、恵まれているというのは、遠くで見て美しいというだけではなくて、やっぱり現場に足を運んだり、様々な事情、理由での山菜とか、キノコとかも含めて、実際自然と親しむような活動が県民の行動の中では一定程度あるのだなと、それをだから自らやめるということを選択せざるを得なかった人たちが余暇の充実にはマイナスの方向で働いたのかなと、私なりにそこも結構あったかなと感じています。ふだんこんなに差がつくようなものではないのではないのではないかなと思ったと、だって全員が入場制限かかっていたら同じように全員が下がるわけですから、入場制限がかけられていないのですけれども、自らやっぱり自粛をしたという形の充実度は下がるのかなと一つ考えたところであります。

はい、どうぞ。では、山田委員。

**○山田佳奈委員** 今部会長がおっしゃってくださったことで、生活実感なのですが、個人的な話ですが、私も車がないので、そうすると身近にいろんなところに触れ合いの場はありますけれども、ひょっとすると地域にもよるのかなという気がしています。例えば車がなく、公共交通機関に乗らないとどこかいろんな遠くに行けないとなったら、やっぱり私もかなり引き籠もりましたので、特に車がない方、公共交通機関を使わざるを得ないという方は、出にくくなるという可能性はあろうかな、と今部会長の話聞きながらちょっと思ったところでもあります。また、先ほど若菜委員さんがおっしゃったように、本当に身近にあってという方は、ここは通常の触れ合いというか、ひょっとすると前年度、平成31年とR2年とのこの内容の差がもし出てくれば、コロナの影響というのが結構見えてくるのかなと感じた次第です。

**○吉野英岐部会長** 何か今の意見に関連して。

**○若菜千穂副部会長** 今吉野先生が指摘されたことなのですけれども、この5ページのところ、数字の読み方はちょっと気をつけなければいけなくて、例えば3.9%で、私もここ随分差が出ているなと思ったのですけれども、例えば低下した人3.9って、低いから機会が少ないという数字ではないですよ。なので、ただそれを思い浮かべなかったということなので、そこって本当に読む上ですごく注意しなければいけないところなのですから、注意しなければいけないなとちょっと思いました。ですよ。

**○和川央委員** はい、そうです。

**○若菜千穂副部会長** だから、むしろ影響はないと、岩手は自然が豊かだと思っている人は当然多いので、むしろ自然はあるしみたいなの、この3.9というか、この低下した人の中にも十分、いいや、自然で、盛岡に行けないので、海に行っておけばいいのだみたいなの、そういう人が多分たくさんいるので、少ないからすごいということではないとは、ちょっと見方これだから、頭でちゃんと見ておかないと駄目なのです。何か補足というか、いいですか。

○和川央委員 いえいえ、大丈夫です、大丈夫です。おっしゃるとおりです。

○吉野英岐部会長 これプラスとマイナス両方取れるようにしてあるのですよね、実はこの項目って。例えば自由な時間の確保というのは、確保できる人も答えられるし、確保できなかったなという人も答えられるのですよね。

○若菜千穂副部会長 そうそう。だから、両方入っているから。

○吉野英岐部会長 そう、だから両方入っているようにつくってあるのですけれども、もしかすると自然のところはそういう場所や機会があるというふうに、片側だけを意識すると、ないという人はこれが見えなくなってしまうのかなというような、受け止め方というのですか、それがちょっとこれだけ差がつくとあったかなという感じなのです。本来は両面で、増えても減ってもどっちでもやれますよとはしてある、スポーツ観戦とか、ある人はあると言うし、ない人はないと思うのですけれども、その辺はいかがでしょうか、ティー先生。

○ティー・キャンヘーン委員 調査票を見れば一番分かりやすいのですけれども、影響があったかというように調査票があって、その原因は何ですかという設問ということですよ。だから、自分が低下したとっていて、では原因は何ですかと丸していくでよろしいのですよね、事務局側、合っていますよね。

○池田政策企画課特命課長 そうです。参考資料4のところに調査票はつけてございますので。

○ティー・キャンヘーン委員 なので、だから自分が上昇したといて、では原因は何ですかと複数回答できるように丸つけられるので、というような感じでいいの、違うの。資料合っているの。

○池田政策企画課特命課長 参考資料の4の2ページの辺りが今の記述のところになりますが、お話しのとおり基本的には感じる、感じないの実感があって、その後に回答した理由に丸つけてくださいと。

○ティー・キャンヘーン委員 関係が強い要因全てに丸をつけてくださいという形でつけられるので、これが少ないということはそういうのを感じないと、自分は実感がすごくあるのだけれども、理由の中では自分はそう思っていないというような読み方でいいと思うのです。

○吉野英岐部会長 そうすると、むしろ自然の触れ合いはあったけれども、それが低下の原因ではないから。

○**ティー・キャンヘーン委員** ではない。

○**吉野英岐部会長** すると、行かなくなったわけではないということ。

○**ティー・キャンヘーン委員** いや、そこそうですね。

○**和川央委員** かえってコロナで行くところなくて、行ったのではないですか。

○**若菜千穂副部会長** 何となくそんな感じするのですよね。

○**和川央委員** そういう解釈が大切かなと思います。

○**吉野英岐部会長** 何かそうすると、大きくこの3つでこんなにどうして差がつくのかという感じがするのですけれども、逆に。みんな行けたのだから行っていたんだから。

○**和川央委員** 行けたから、左はついているのですよね。

○**ティー・キャンヘーン委員** そうです、そうです。

○**和川央委員** 行けたから左はついていて、だから実はこれ横で見るのってちょっと、危険ではないのですけれども、注意をして、あまり我々は横では見ないのですけれども、横で見るのは非常に注意をしていただかないと誤解を招く懸念があるかなと思います。

○**吉野英岐部会長** 谷藤委員。

○**谷藤邦基委員** 話に乗って言うのも何なののですけれども、いずれ岩手県ではステイホームというのはなかったはずです。

○**吉野英岐部会長** やらなかったと。

○**谷藤邦基委員** 実際問題としては、ゴールデンウィーク前後には商店街でも自主的に休業していた店が多かったので、町なかに出たりということはないかなと思いますし、いわゆる3密の回避ということで、屋内でのいろんなイベント等は制約があったかもしれませんが、それ以外の屋外のアウトドアのことはほとんど制約されていなかったという意識ではないかなと思います、岩手県民は。

だから、そういう目で見ると、ここの結果はそんなに不自然ではないなと私は見ていたのですけれども。あとは趣味の問題とか、私は山歩きは別に趣味ではないので、行きませんが、それは最初からそういうことに興味がないからであって、行きたい人が行けなかったという状況ではなかった。



○吉野英岐部会長 つまり減った理由には当たらない、感じない理由には当たらないという感じなのですかね。自由な時間の確保は、感じない理由でトップになるのは、確保できていないというように考えた方がいい。

○谷藤邦基委員 だから、まさに自由な時間の確保というのは、回答者によってこれをポジティブに取った人もいれば、ネガティブに取った人もいるというところだと思います。なので、さっき言った在宅勤務というの、それによって自由な時間ができたという当事者もいれば、あおりを食らって私の自由時間がなくなったと思っている人もいるのではないかなという、それは想像の世界ですけれども、両面がある。まさに横で見たときに同じ意味かどうかというのがそれぞれ、それぞれにあるのだらうなと思います。

○吉野英岐部会長 分かりました。ありがとうございました。  
はい、どうぞ。

○和川央委員 1点だけ、それではちょっと補足を、横で見るのは注意というのはそのとおりなのですが、そういった意味でこの見方としまして、例えば7ページと8ページを比較して見た方がよろしいのではないかなと思います。何が言いたいかといいますと、7ページが2から1、いわゆる去年とおととの比較で、そして8ページが今年と去年の比較なのですが、例えば実感が低下した人で一番が時間の確保なのですが、コロナ前では62.7%、コロナ後は52.0%、確かに一番ではあるのですが、そう答えた人は減ってきているのです。一方で、娯楽の場とか、家族の交流とか、一番下に来ているものなのですが、コロナ前で答えた人に比べて、コロナ後で答えた人が増えているということがあるわけです。そうすると、推測とすれば、コロナ後はこれを要因として答えている人が増えたというのは、一つ解釈の範囲内ではあり得るのかなと思います。

○吉野英岐部会長 若菜委員。

○若菜千穂副部会長 その見方は非常に面白いと思うのですが、そうすると7ページはむしろR2とR3、1年ごとに出ているね。

○和川央委員 はい。

○若菜千穂副部会長 分かりました。それはとてもいいかなと思います。

○吉野英岐部会長 よろしいですか。

○若菜千穂副部会長 うん。

○吉野英岐部会長 では、今いろいろ確認事項も含めて御意見いただきましたので、この

実感やって、関連の強い要因というのは、プラスと取る人もいれば、つまり増えたと取る人もいれば減ったという人もいるという、両方で取れるということが普通は考えられるということですね、時間とか場とかね。その中で差がついているということは、実際にその実感が低下、実感に近いところに影響を基本与えていないというように解釈できるはずでと、そうなるとさっき言った感じていない人のところが実感がほかのところと違うという、要は選んでいないということだから、それがあまり意識の中に出てこないという人たちのことだというふうに見た方が自然ではないかという御意見をいただきました。ありがとうございました。

それでは、もう一つだけやっていきますか、つながり、いいですか。では、これを最後にしますけれども、つながりをお願いします。

**○池田政策企画課特命課長** 地域社会とのつながりの実感ということで、①分野別実感の概要ということです。こちらの実感平均値 3.09 点、基準年である平成 31 年調査よりも 0.25 点低下しているというものになります。t 検定の結果としては、実感低下という整理となっているものがございます。表 3 のところに、基準年と比較して実感に優位な差があった属性というものを一覧としてお示しをしております。幅広い属性に広がっているというような状況というものです。

おめくりいただきまして、新型コロナウイルス感染症の影響というところになります。こちらのところ、よい影響を感じた割合 6 %、よくない影響を感じた割合が 52 %ということになってございますし、前年と比較して見た場合、R 2 と R 3 の調査を比較したところに優位な差があるものということが表 4 のところでお示しをさせていただいています。50 代ですとか、家族従業者等々のところに出てくるというものになります。

実感が低下した要因というところで、属性のところから特徴的な属性の抽出ができなかったものですから、最終的には分野別実感の実感が低下した方々の主な回答理由というところから抽出していただきまして、理由としては隣近所との面識・交流、自治会・町内会活動への参加、その地域で過ごした年数というようなことは、基準年と比較しても低下の要因ということで考えてございます。

あわせて、新型コロナウイルス感染症の影響について、よくない影響を感じた人であって、前年調査に比べて実感が低下した方の主な回答理由を見てもみますということで、これも先ほどと同様に 75 ページのところを御覧いただければと思うのですが、こちらの方で 1 位が自治会・町内会の活動への参加、2 番目が隣近所との面識・交流、その地域で過ごした年数というような形になってございますので、こちらの部分につきましても基本的には分野別実感低下した理由と、この新型コロナウイルス感染症の影響でよくない影響を受けた方、感じた人が同じような理由になったというような分野でございます。

私からの説明は以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございました。つながりのところは、低下のポイント数も大きい、0.25 低下ということで、資料 1 ページ目にありますとおり、どの属性で見ても全面安というか、どこからどう見てもポイントは下がっていると今の状態では見える。それを詳しく分析したのがそのこちらの以下のところにあるのです。では、全体の資料を見て、

御質問、御意見をお願いしたいと思います。

はい、では和川委員。

**○和川央委員** 1点確認をさせてください。今あった75ページのこの人なのですが、例えばよくない影響を感じる人の回答というのは、よくない影響を感じていた人だけの回答、それとも、としてさらに実感が低下した人とかとクロスがかかっている状態でしょうか。

**○池田政策企画課特命課長** クロスがかかっている状態です。

**○和川央委員** 実感が低下した人のクロスということですか。

**○池田政策企画課特命課長** そうですね。実感が低下している人で、かつよくない影響を感じた人の回答と。

**○和川央委員** では、よい影響は逆に、よい影響を感じて実感が上がった人と。

**○池田政策企画課特命課長** ここの分野、上の方に書いているのですが、よくない影響を感じた人であって、実感が低下したということを前提とした上でよい影響か、どちらとも言えない、よくない影響というのはあるので、必要によって実感が上昇した方、どちらでもない方の部分もよくない方も含むご用意していますので、必要に応じて部会の資料としては御用意できます。

**○和川央委員** そういう意味ではないです。確認です。

**○吉野英岐部会長** よろしいですか。

そのほか御確認、御質問ありますか。

では、山田委員お願いします。

**○山田佳奈委員** 先ほど和川委員さんもおっしゃっていた、私もちょっと気になっていた基準年とR2、R2とR3、その対比で見たときに5ページか7ページでしょうか、この両方を見比べると、あまり大きな傾向も見られないという、そういうことでしょうか、これ。

**○和川央委員** 全体的にもう本当に、先ほど全面安という話があったのですが、まさしくそのとおりにかなというように私は感じます。

**○山田佳奈委員** そうなんですね。確かに大きな、あえて言えば実感が上昇した方の3、4、地域の行事、ここがちょっと下がっているという数字のところでしょうか、そのほかにはあまり大きく変わらないと見てよろしいのですかということですか。

○和川央委員 と私も、はい。

○山田佳奈委員 ありがとうございます。ちょっと見方の確認です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

0.2ポイントとか0.3ポイントとかどこも下がっているし、同じカテゴリーの中でもそんなに差がついていないというか、等しく下がっているような、どこからどう切っても。というような傾向がうかがえそうだなとは思いますが。

はい、どうぞ。

○山田佳奈委員 すみません、ありがとうございます。数字がこのようなつながりをしていけば、結局コメントを拝見しますと、コロナの影響というのはやっぱりある程度出ていまして、煩わしさというか、先ほど部会長もおっしゃったこととちょっとダブるかもしれませんが、言ってみればそういったところを踏まえながら、少しコロナ影響というか、集まらないことによる軽減というのでしょうか、というのも実感というところかなと思います。ですので、その結果に入れる・入れないというのとはまた別に、この中の方も前年度と同じ、平成31年とR2年の傾向と中身はかなり同じ、比べるとちょっと違う側面も入ってくるのではないかなとは思いつつ拝見しました。感想ではないですけども。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

どうぞ、若菜委員。

○若菜千穂副部会長 若菜方式が悪いのかはあれですけども、若菜方式でぜひ見て、拾っていただきたいと思うのは、資料2でこう書かれてしまうと、やっぱりいろんなところ抜け落ちているのではないかなというのがあって、特に「おっ」と思ったのが、私は35ページの一人暮らしの方、これわっと見ると一人暮らしの方の隣近所との面識・交流の選択率がやっぱりそうなのだというのがあって、コロナで隣のおうちへのお茶飲みっこができなくなった、一人暮らしに対するインパクトはほかの世帯と比べると高いのだなという、こういう丁寧な抽出をぜひしていただきたいなと思っていて、若菜方式であれば和川方式でいいので、そうすると昨年度も比較ですね、それは本当にもうまさに見てみたいのと、昨年度の一人暮らしの方の感じない方のこの5番の割合が一体何%だったのか、それこそ変わらないのであれば、じゃ、ちょっともしかしたらまたさらにこれ、資料がたくさんになっちゃう、経年で見るといいことというのは、今回実感できたのですけれども、そういうのはやっぱりちょっと一個一個で割っていかないと、せっかく取ったデータがもったいないなというのは改めて思いました。

○吉野英岐部会長 世帯構成によって、今一人暮らしの方というのは、地域とのつながりの実感とかが下がっているというのは、やっぱりほかのところと違う要因があるのではないかな。

**○若菜千穂副部長** そうですね。特にこの資料6の方で、実感が低下した属性というのを挙げていただいているので、それについてある程度チェックしたのですが、特徴的なところが幾つかあるので、それ入れる作業をされたらいいのかなと思いました。

**○吉野英岐部長** ありがとうございます。ふだんから、私は近所にお茶を飲みに行ったりはしないのですが、いろんな町内会の総会が止まったとか、活動ができなくなったということは割と市の広報であるとか、町内会の資料でもって、市が中止になりましたとか、書面決議になりましたと、そういうことは実感としては私自身感じていたのですが、もともとそんなに隣近所と付き合いがない人間はどうなのですね、やっぱり一人暮らしであってもなくても、少ないものは少ないというか、あまり影響がないと感じるのかなとも思ったのですが、でもふだんから御近所付き合いが割と普通にある方々から見れば、その町内会の総会が止まるよりはというよりも、御近所のおうちに行けなくなったということの方が、地域社会とのつながりがやっぱり感じられなくなっているということとリンクする可能性はすごくあるのかなと思いました。その人のライフスタイルが相当影響しそうなところだと思って見ていました。

竹村先生、先生は都会にお住まいですが、今回の先生御自身は、やっぱり今のお住まいの近くで近所付き合いでのつながりが減ったとか、増えたとか、そんな実感の変化はありますか。

**○竹村祥子委員** いろいろな地域行事が中止されるという

**○吉野英岐部長** 先生、すみません、また音声途切れてしましまして、一部聞こえるのです、いつも。頭出しの5秒ぐらいは聞こえるのですが、その後聞こえなくなってしまうのですが、分かりますか、先生の方で。

**○竹村祥子委員** はい。

**○廣田政策企画課主任** 竹村先生、すみません、今一通りお話しいただいたのですが、ちょっと会場で拾えていなくて、申し訳ありません。

**○竹村祥子委員** 意見については、次回のときにしたいと思います。

**○吉野英岐部長** ありがとうございます。助かります。ちょっとあと不具合は、次回までには解消しておきたいと思います。

**○竹村祥子委員** はい。

**○吉野英岐部長** 先生、本当にちょっとすみません、機械の調子がいま一つよくなくて、先生のお声が、何度もそうなのですが、最初の5秒は聞こえるのですが、その後なぜか聞こえなくなってしまうので、大変失礼おかけしております。なので、お伺い

ただけというありがたいお話もありましたので、ぜひ事務局の方に感想、御意見、御質問いただきたいのと、先ほど申し上げたとおり、次回ちょっとまた会場が変わるのです。ここ、今水産会館のところでやっているのですが、エスポワールになるのかな、エスポワールではこういうことが起こらないように、事前に事務局の方でセッティング万全にやっただく予定ですので、ちょっと今日は本当に御迷惑をおかけして申し訳ございませんけれども、引き続き次回は御意見いただくことにしたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

ティー先生、どうぞ。

**○ティー・キャンヘーン委員** この地域のつながりで、これまでの傾向ってこの資料の中のどこになりますか。

**○吉野英岐部会長** これまでというのは。

**○ティー・キャンヘーン委員** 継続して落ちているかどうかをちょっと確認したくて、この3年間は落ちてはいるのですけれども、その前どうだったかなと、この頂いた資料を何かどこかで確認できないのかなと。

**○山田佳奈委員** 県民意識調査の。

**○ティー・キャンヘーン委員** そうですね、時系列の。

**○池田政策企画課特命課長** お手元にあります去年のレポートを御覧いただくのが一番いいのかなと思ってまして、去年のレポートが参考資料5、106 ページのところを御覧いただければと思います。このところに、地域社会のつながり、属性別平均点の過去の平成28年からの結果が載っております。今回はすみませんが、基準年からというベースで取り除いている部分なのですが、過去のデータを見ますと、基本的には平成31年までは何となく横ばいで来ている。2年、3年と下がってきたというようなふうには捉えているというものです。

**○吉野英岐部会長** コロナの前から下がっていたのではないかとということですよ。

**○池田政策企画課特命課長** はい。

**○ティー・キャンヘーン委員** いや、さらに落ちたなという。

**○吉野英岐部会長** さらに落ちたことはあると思います。

**○ティー・キャンヘーン委員** コロナの影響もあるかもしれないけれども、何かこれもこれからの分析にはなるのかも、分析というか見ていく必要はあるかもしれませんが、3切

りそうだねというちょっとした、これから。

○吉野英岐部会長 今 3.09。

○ティー・キャンヘーン委員 後から分析にはなると思いますので、ちょっと気になった。ありがとうございました。

○吉野英岐部会長 ある意味、ここ2年ほどかなり数字が下がっているのではないかと、それまでは3.3とか、3.2とかあったものがここ2年で3すれすれぐらいになる。恐らくこの令和3年の数字が下がったのはコロナの影響が十分に考えられるけれども、令和2年から下がっていることを考えると、より構造的な要因が何か地域社会の中で起こっているのかもしれないと、だからコロナの影響がなくなれば、また地域社会のつながりが皆さん感じられるようになるとはちょっと自動的に考えられないかもしれないということですね、ティー先生。これ長期下落の中に、もう入ってしまっているのかもしれない。

○ティー・キャンヘーン委員 はい。

○吉野英岐部会長 さらに、今回コロナで下がっていると、来年またそれでもっと下がってしまうかもしれないということが、ちょっとこれは推測だから何とも分かりませんが、何かコロナ以外の要因がやはり地域社会の中につなかりを弱くしている、感じられなくしている何か原因が分かってくれば対策の打ちようがあるというか、施策の打ちようもあるということにはなるのかなと、コロナ対策だけではないですよということにはちょっと思いました。示唆的には言えそうだという気がするのです。ありがとうございました。

そうですね、コロナの前でもほぼ全面下がっていますものね、どこでも。106 ページのデータをいただいたものですけれども、ほぼ三角が全部につくということは、どこからどう切っても下がったということですのでものね。対前年比あるいは対基準年比、あるいは長期的な経過も見えていくと、より詳しいことが分かることも教えていただきました。ありがとうございました。

そのほか、こういった分析があるとより分かるかありますか。よろしいですか。どうなのですかね。

「なし」の声

○吉野英岐部会長 では、ちょっとつながりのところはもともと分量も多かったのですが、今のみたいな新しい、長期的な分析も含めて考えていきたいと思います。

#### (4) その他

○吉野英岐部会長 時間がもう 12 時になってしまいますので、取りあえず今日は9つのうち2つの分野につきまして見てきたということですので、次回は地域の安全からでいいですか、事務局。

○池田政策企画課特命課長 はい。

○吉野英岐部会長 地域の安全から歴史・文化、健康の方に一つ一つ見ていきたいと思えますので、お時間あれば事前に御覧いただいて、御質問のポイントを絞っていただくとありがたいなと思っております。

では、今日のところは一応お昼ということで、一旦閉会いたしまして、マイクの方は事務局にお戻ししたいと思います。

○高橋政策企画課評価課長 それでは、次回の部会の公開、非公開についてですが、次回の部会につきましても本日と同じ内容となりますので、非公開での開催とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、長時間にわたりまして御議論いただきましてありがとうございます。

次回、来週の5月27日木曜日の9時半からを予定しております。先ほど部会長からもありましたとおり、会場が本日とは異なりまして、エスポワールいわてを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 4 閉 会

○高橋政策企画課評価課長 以上をもちまして本日の部会を終了いたします。ありがとうございました。